

## 原爆犠牲者慰霊祭挙行

原爆死没者教職員・学生897人の御霊を慰めるため、毎年実施されている原爆犠牲者慰霊祭が、8月9日 午前10時55分から医学部記念講堂において、遺族、医学部長ら約350人が参列して行われました。

まず、医学部長から「原子爆弾犠牲者の御霊に謹んで哀悼の意を捧げるとともに、原爆という不幸を経験した本学は平和の大切さを後世に伝える役割があり、学問の府に学ぶ者として地域と国際的分野で

医療貢献を果たすことも我々の責務と考える。」と式辞が述べられた後、参列者全員で黙祷を捧げました。

次いで、当時長崎医科大学附属病院の看護婦として勤務中に被災された宮崎トミホさんが「このような悲惨な出来事は二度とあってはならないし、風化させてもならない。」と体験談を話されました。

引き続き、学長他大学関係者、遺族ら参列者全員による献花が行われました。

慰霊祭終了後、医学部福利厚生棟において、学徒遺族会、教職員遺族会及び看護婦遺族会合同の追悼懇談会が行われました。



式辞を述べる兼松医学部長



黙祷を捧げる参列者



体験談を話される宮崎トミホさん

(医学部)